

令和2年度使用 小学校音楽科（音楽） 調査資料

発行者	調査内容
教育出版	<p><子供の学習意欲を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「スキルアップ（歌声とリズムのトレーニング）」活動が、2年生以上で取り上げられ、児童が楽しみながら学習することができる。 ○ 鑑賞では、身体を動かしたり声を出したりする活動があり、実感を伴って楽曲の特徴を捉えることができる。 ○ 歌唱共通教材の写真が大きく見開きで載っているため、臨場感があり情景を思い浮かべやすい。 <p>△ 背景が青地で文字が黒というように、色づかいに差がないため歌詞が読みづらい箇所がある。また、文字が多く、学習しづらい箇所がある。</p> <p><教師の授業力を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱曲が多く、斉唱や交互唱、輪唱、合唱などバラエティーに富んでいて、様々な形態の歌唱を学習させることができる。 ○ 「音のスケッチ」という音楽づくりが豊富で、学期に1回以上学習することができ、リズム打ちや声、楽器を使いながら、系統的・発展的に音楽づくりの積み重ねができる。 ○ すべての楽曲で「音楽のもと」があり、その題材で取り扱う要素（音色、リズム、強弱など）について、考えさせながら学習を進められる。 <p>△ 合奏曲では、細かな音符が多かったりテンポが速かったりする楽曲があるため、指導に時間がかかる。また、指導力も問われ、音楽専科でも難しい。</p> <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学び合う音楽」があるので、教え合ったり考えたりしながら学習できる。
教育芸術社	<p><子供の学習意欲を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱曲では「様子を思い浮かべよう」という目標が各学年にあり、情景をイメージしやすく想像力を高めることができる。 ○ 「みんなで楽しく」という題材の合奏曲があり、子ども達が大好きな世界の音楽に触れられる楽しみがある。また、簡単なアレンジなので仕上がりも早く、親しみやすい。特に、主旋律が簡単で楽器が苦手な子供も学習しやすい。 ○ 1つの楽曲を鑑賞した後、器楽で演奏して旋律やリズムを体感するなど、別の形で繰り返し取り扱うものもあり、発展的に学習できる。 ○ 鑑賞曲の図形楽譜を指でたどることで、楽曲の音高やリズムなどを視覚と聴覚で確認することができる。 <p><教師の授業力を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「よびかけとこたえ」を生かした歌い方や作詞者・作曲者・演奏者がどのような工夫をしているかなどが示されており、音楽的な見方・考え方に着目させながら、思考力・判断力・表現力を高められるよう工夫がある。 ○ 器楽合奏の曲は技能が易しく、本格的に演奏できる楽曲があり、音楽専科でない担任でも指導しやすい。 ○ 音楽づくりでは、旋律や和音などをつくるためのきまりやワークシート、旋律の例が掲載され、プログラミング的思考に触れるなど、授業の質を高められる工夫がある。 ○ 中高学年の鑑賞では、音楽の諸要素を聴き取り感じたことに着目させながら学習を深められるワークシートがあり、思考力・判断力を高められる工夫がある。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年から6年までの学習が系統的に行われるよう、巻末に「振り返りのページ」を設け、各学年のまとめをおこなうことができる。